

巻 頭 言

JFE スチール常務執行役員
棒線事業部長

赤木 純一



鉄鋼業界および我々を取り巻く環境は大きく変動しています。とりわけ地球温暖化防止のための CO₂ 排出量削減は、世界共通の課題として、各社が強力に取り組を進めています。JFE グループにおきましても、2050 年 CN (カーボンニュートラル) に向けて、製造プロセスにおける環境負荷低減の観点より、さまざまな技術開発に精力的に取り組んでいます。

JFE スチールの特殊鋼棒線事業は、2014 年の JFE 条鋼とのブランド統合を経て、2017 年より高炉素材で製造する西日本製鉄所 (倉敷地区) と電炉素材で製造する仙台製造所の 2 拠点から、それぞれの特徴を活かした製品をタイムリーにお届けしています。また、仙台製造所は特殊鋼棒線向けで JFE スチール唯一の電気炉を有しており、CN 戦略上も重要な製造拠点に位置付けられております。2024 年度には粗鋼量を現行比で約 2 割増やす年間 70 万 t 体制を目指した能力増強を実行しました。

前回の棒線小特集号発行から 8 年の歳月が経過しており、今回は私たちを取り巻く環境の変化を踏まえ、主に CN、DX (デジタルトランスフォーメーション) の観点で、JFE スチール特殊鋼棒線の新商品や、新しい製造技術を紹介いたします。

新商品については、お客様での省エネ・省工程で脱炭素に寄与し、環境に調和した機能を持つ高性能鋼の開発に取り組んできました。RoHS 指令に対応した鉛分散型低炭素複合快削鋼や、低歪で高強度化を実現できる軟窒化鋼などの歯車用鋼、熱処理省略を可能とする冷間鍛造用高周波焼入れ用鋼などを紹介いたします。

また新しい製造技術として、画像認識や DS (データサイエンス) を活用した製品品質・原単位改善、表面性状に優れた高級特殊鋼製造プロセスなどを紹介いたします。これらの技術は倉敷・仙台それぞれの工場に導入し、製品づくりに活用しています。

JFE スチールは「ねがう未来に、鉄で応える。」をパーパスとし、社会、お客様、社員の幅広い想いに対して誠実に寄り添いながら、「鉄」「鉄づくり」を通じて未来を創ってきたいという想いを込めております。我々棒線分野においても、このパーパスの下、お客様に喜んでいただける商品、特に地球温暖化防止に資する商品をお届けすべく努力を重ねており、今回ご紹介する新商品や新技術は、これまでの取組みの成果であります。今後も、技術開発を積極的に推進して皆様の想いに応えてまいりますので、より一層のご指導、ご意見をいただければ幸いに存じます。